

## 平成29年度 第4回八雲町民自治推進委員会 会議録（要旨）

- 日 時 平成30年2月21日（水）18：30～19：40
- 場 所 八雲町役場 議員控室
- 出席委員 阿部政邦 会長、東間和浩 委員、福田浩子 委員  
足立美津子 委員、高木一哉 委員、桂川裕樹 委員
- 事務局 竹内企画振興課長、作田協働推進係長、浮須
- 傍聴者 なし

### 1 開 会 進行～事務局

### 2 会長挨拶

（会長）

第3回町民委員会において答申書をまとめる予定であったが、各委員からもう少し深掘りをして、答申書をまとめるべきではないかという意見があったので、前回の議事録に基づいて、答申書を一部作り直した。議会に対する要望も盛り込むという形で、新たな項目を起こし、答申案を作成したので、今日は全体を通して改めて討議をし直して、予定されている3月の答申案を町に提出をするという方向で取り組みたい。

### 3 条例の見直しに関する答申書（素案）について

（事務局）

事前に送らせていただいた自治基本条例の見直しに関する答申書は、前回の会議で委員の皆様からいただいた意見をもとに、前回より踏み込んだ形での答申書素案の調整を行った。本日は前回からの変更部分を説明させていただきたい。

素案の3ページの（2）コミュニティの育成について、前回の会議の中で、中間支援センターの役割が必要なのことは変わらないということから、センターの設置が一番望ましいといことに加え、「ら・ふも」に中間支援センターの役割を担っていただきたいという文章を追加した。

4ページの（3）情報提供の徹底については、情報共有と徹底は似た部分もあるが、あくまでも議会及び行政の情報提供の徹底ということで、文章を追加させていただいた。議会及び行政については、町政に関する情報を積極的に提供し、情報共有と町民参加を基本とした開かれた議会、透明性の高い行政運営を行わなければいけない。そのため、各審議会等の会議資料議事録の公開と議会のインターネットライブ配信や定例会議・臨時会及び各常任委員会等の会議資料・議事録の公開など、情報提供の徹底をしていただきたいという部分を追加した。

（4）の情報共有の推進については、前段の部分は変更していないが、基本的に、今は広報・ホームページ等で、情報の共有を図っているが、SNSを活用するなど社会的ニーズに

対応した情報発信手法への改善をしていただきたいという部分を入れさせていただいた。これについては、広報・ホームページももちろん必要な情報を提供する上で必要な手段ですが、今の時代にその2つだけでは徹底ができないということで、特に若い世代については広報誌もホームページもなかなか見る機会が少ないということで、情報をキャッチしやすいように、SNS活用も今後考えていく必要があるということを追加した内容である。

町民参加については、パブリックコメントが町民に広く浸透されていないという状況であり、意見提出件数も低調であるということから、意見の求め方や求める時期を改善するなど、町民が意見を出しやすい、町民に寄り添った制度への運用改善をしていただきたいという内容を追加した。

前回いただいた意見を加味し、調整をさせていただいたので、ご意見をいただきたい。

(委員)

1つは中間支援センターを設置するということは引き続き要求していくが、「ら・ふも」の活用が中間支援センター的な位置づけを図ってはどうかという意見があった。

それから、議会に対してもインターネットライブ配信や各審議会や常任委員会等の議事録をホームページ上で、掲載することも求めていくということもあった。

さらには、SNSを活用したことによって、広報やホームページでの不足する部分を補っていくということ。

また、パブリックコメントは今年度に入ってからかなりの件数の提案をしているが、ほとんど意見が出されてきていない。町民に寄り添った形での提案、本気でパブリックコメントを町民から収集するという姿勢が必要ではないかということについて、答申書に盛り込んだということでの提案である。委員の皆様からご意見をいただきたい。

(委員)

答申の内容は良いと思う。

町長へは事前に答申の内容を伝えるという段取りはあるか。事前に町長に知らせておいた方がスムーズに話が出るのではないかと。答申の内容について、いつどのように具体化していくかというところまでを見届けないとこの答申の意味がないのではないかと。ただの言いっぱなしになってしまう。内容を精査したにも関わらず、答申を受けただけで終わるのは避けたい。

(事務局)

答申の前に町長に話をする必要があるが現時点ではわからないが、事前に内容を知らせておきたいという事でよろしいか。

(委員)

事前に知らせた方がスムーズに進むのではないかと。

(委員)

行政の進め方があると思うが、できれば事前に町長に対しては答申書について内容を伝え、答申後に項目ごとにまとめたことを話ができれば、その時点で回答できるもの、担当課におろして、検討させるものという形でより具体性が出てくると感じる。

論議をしても答申案を手渡して終わるのではなく、私たちが任期4年をかけて内容について掘り下げて論議をしたことについて、前向きに進めていただく必要がある。

内容は、一度事務局ともお話をして、(3)についても盛り込んでいただいたので、あえてこれ以上の論議は必要ないと感じている。この間の過程や答申書をまとめ上げた時点での考え方や思いというものを、直接的に町長に伝える時間や機会を設けていただくようにしたい。

(事務局)

答申内容は事前に町長の目に入る。

(委員)

町長の時間の許す限り町長との懇談を設けていただいて、それをもって私どもの任期は終了する。他にどなたか御意見やご質問はございませんか。無ければ、この答申書に限らず、今年度5回目の答申書を提出するという機会において町長を交えた形での話し合いがもたれるが、公式にこうした形で話し合う時間というのは本日が最後となる。4年間を振り返って、9年目に託す思いなどあればお聞きしたい。

(委員)

パブコメの意見提出がほとんどない状況について、役場内ではどのように感じ取っているのか。

(事務局)

パブコメを出して、意見の数が低調ということに対して関係課がどのように感じているのかということについては、担当職員も感じていると思う。

(事務局)

各担当からパブコメの意見数がゼロである。パブコメをやることがありきになっているような感じを受ける。計画としてまとまったものに意見を求めても、何も言えないという意見があったので、計画づくりの段階からパブコメをやることは膨大な時間を要する。

(委員)

パブコメが現時点では形式的なものになっている。ほとんど成文化した状態で意見を求めると何もないだろうと思う。素案の段階で求めるとなったら、これもまた盛り込む側も大変だろうし、意見を出すにしてもどこまで手をつけていいのかという問題もあり、パブコメを

求める側の本気度が今求められているのではないか。関係する団体や地域に聞き取りもしくは成文化して提案してもらうなどの対応をほとんどしていない状況で、意見はでてこないのではないか。パブコメの在り方や求め方を根本的に考える時期に来ている。パブコメにより1か月間行政が遅滞する。パブコメ自体が町民のニーズに合っているのかということを考えて時に、新たな課題として真剣に考えていただくということが必要かなと感じている。

(委員)

答申書の内容で気になった点は、パブコメについてである。パブコメを知らない人がほとんどで、意見を聞く方法をパブコメにこだわらないほうが良いのではないか。町広報は大変役に立つもので良いと思うので、もっと充実させてほしい。

(委員)

SNSの活用はすぐやるべきであり、すぐ出来ることであると思うが、どのような方法が素早く実現できるのか。

(委員)

町民に対しての配信のされ方は、若い世代は書面で来るよりはスマホを常に持ち歩いているので、情報発信がされた時にすぐに見ることができ、気になったら開くことができる。実際には広報誌よりも身近に見れる方法としては、万全ではないかもしれないが、良い方法である。

広く知ってもらう、コメントできる部分ではすごく良い方法である。やはり町広報誌もすごく良いと思うが、手短な方法としてSNSが良いと思う。発信する側で色々と工夫して考えることだが、Jアラートのように町民が選ぶのではなくて発信したい側が伝えたいものを、SNSをとおして情報を発信する方が浸透しやすいと感じる。広報誌だと選択肢があって、気になる項目を見るが、SNSの場合は、町民に知ってもらいたいことを単発的にも断続的にも発信することもできるので、SNSは有効である。

(事務局)

選管でもSNSを活用している。選挙権が18歳からに変更となったことに伴うツイートなどを行っているとのことである。

(委員)

今月の17日の猛吹雪の際に、手っ取り早く八雲熊石線・八雲今金線の通行止めについて、道路情報は八雲町ホームページには掲載されていたが、それを見てどうこうする人はいなかったらと思う。毎日見てる人は、情報を知ることができるが、道や国の道路情報等、または不通区間の案内を見るので、SNSはピンポイントでそのようなものが提供できる点では、良いと感じる。

他に意見等なければ、提案のあった答申書の内容で町長へ答申することとする。

#### 4 その他

・町長への答申～3月20日（火）1時間程度

※答申終了後、懇親会開催予定

#### 5 閉 会